

警戒種

大豆畑への侵入が危惧される雑草 -ニシキアオイ-

同定のカギ
・葉先が尖ってザラつく
・花は薄紫
・成熟した実が黒くなる



形態・特徴

メキシコ原産のアオイ科の一年草。茎は直立して50-100cm程度。木質化し表面には星状毛が生える。葉は互生、三角状ほこ形で長さ4-9cm、幅2-6cm、1対の大型鋸歯と不揃いの小型鋸歯があり、両面に毛が生え、葉柄は長さ2-5cm。

花は葉腋から伸びた花柄の先に単生する。がくは長さ10-15mm、5裂し、5枚の花弁は紫色で15-25mm、花径は10mm前後。

果実は10-20個の分果からなるさく果となる。1分果に1種子を含む。種子は褐色あるいは黒色の腎臓形で表面に短毛が生える。1個体当たり1000個の種子を生産する。

発生生態

畑条件では土中の種子の5.5年後の生存率は30%。硬実で光には影響されず、気温が上昇するにしたがって発芽率も上昇する。最初の45日間はゆっくり生育し、その後急速に生育する。関東地方で、4月下旬から11月上旬まで出芽が見られる。開花・結実は8月下旬から11月下旬まで長く続く。開花・結実期を迎えても成長を続ける。



ニシキアオイ

Anoda cristata



雑草害

ダイズ収量を40%にまで減収させることがある。1㎡あたり8本の発生密度でワタの収量を55%減少させる。

開花・結実期以降も成長を続けて植物体の水分含量が低下しないため、ダイズ収穫時に混入すると汚損粒の原因となりうる。

防除のポイント

初期に発生する個体が大型化するので、大豆圃場内ではベンタゾン液剤やフルチアセットメチル乳剤の全面散布で防除する。発生期間が長いので、畦間や株間処理や中耕培土などを組み合わせて体系で防除する必要がある。

ダイズ落葉期以降に残草している場合は、収穫期まで高い水分を維持したまま生育する危険性があるので、登録のある非選択性除草剤の処理や手取り除草などで確実に防除する必要がある。



写真：上から「生育中のニシキアオイ」、「実生」、「ダイズ成熟期に生育する様子」「花」、「果実」。

Ver. 2.

お問い合わせ
農研機構
植物防疫研究部門
雑草防除研究領域
029-838-8421(広報)





機械的防除

初期生育が遅いので、中耕培土による防除効果が期待できる。

侵入初期の防除が重要

一旦種子が圃場内に落ちると埋土種子を減少させることは困難なので、できるだけ侵入初期に手取りも含めて徹底防除する。



耕種的防除

低密度発生であれば、狭畦栽培によって抑制できる。

圃場周辺の管理で地域全体への蔓延を防ぐ

畦畔など圃場周辺での種子生産を防ぐことが重要。



化学的防除

ベンタゾン液剤やフルチアセットメチル乳剤の全面処理の効果が期待できる。後発生や残草したものは非選択性茎葉処理剤や手取りあるいは中耕培土などで体系で防除する。

落葉期以降の残草を徹底防除する

ニシキアオイは開花・結実しながら成長し、水分が高い状態で維持されるので、汚損粒発生を防止するためには落葉期以降に残草したものを防除が必要。

除草剤情報

大豆播種前、大豆出芽前、畦間や株間処理ではこの他にも使用できる除草剤があります。
※除草剤の使用にあたっては、ラベルをよく読み、よく理解した上で使用方法を遵守してください。

除草剤	薬量	処理方法・時期
ベンタゾン液剤 (大豆バサグラン液剤)	100-150mL/10a	全面散布、大豆2葉期～開花前 (ニシキアオイ4葉期位までが効果的)
フルチアセットメチル乳剤 (アタックショット乳剤)	30-50mL/10a	全面散布、大豆2葉期～開花前 (ニシキアオイ草高10cm位までが効果的)
グリホサートカリウム塩液剤 (ラウンドアップマックスロード)	500mL/10a	全面散布、落葉終期～収穫14日前まで
グリホサートカリウム塩液剤 (タッチダウンiQ)	2倍希釈、 0.1mLを 1-3か所/株	専用塗布器具で塗布処理、収穫7日前まで (分枝にも塗布する必要がある)

※本パンフレットは、農林水産省委託プロジェクト研究「温暖化の進行に適應する生産安定技術の開発」および「収益力向上のための研究開発」の成果に基づいて作成されました。